

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2372001418
法人名	有限会社 たけのこ
事業所名	グループホーム たけのこ
訪問調査日	平成 19 年 12 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 『サークル・福寿草』

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	第2372001418号
法人名	有限会社 たけのこ
事業所名	グループホームたけのこ
所在地	〒441-8145 愛知県豊橋市駒形町字退松85番地 (電話)0532-45-6213

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町1-24	COMBI本陣N203	
訪問調査日	平成19年12月21日	評価確定日	平成20年1月23日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	21人
利用定員数計	18 人
常勤	9 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 10

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	さたけクリニック、田中医院、滝川病院、有賀歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム入り口の門柱には狛犬(シーサ)が置かれている。これはホームに併設された陶芸工房で職員によって製作されたものである。木造平屋のホームである。ホームの周囲はキャベツ畑等が広がり川が流れ散歩道には神社がある。2ユニットは85番地・88番地とされ、それぞれが独立した家ようになっており、別玄関となっている。「いつまでも普通にくらせる」とするノーマライゼーション理念は管理者や職員等のたゆまない介護支援の仕組みづくりによって支えられている。10項目の理念は毎朝復唱され、2項目は職員の気づきに応じ変えられていく。管理者は365日在籍しており、職員との意思疎通のために業務ノートの交換を毎日している。地域交流にも意欲的に取り組んでおり、陶芸工房で作られたものは公民館の作品展へ出したり、工房は陶芸教室として地域にも開放されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘されていた「事故後の再発防止等」についてであるが、事故後の家族への連絡や再発防止のための検討など、事故後の対応について改善が為されており、ヒヤリ・ハットの記録簿も完備されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を理解して常勤、非常勤の21名全員で取り組まれている。評価表には日ごろ感じている率直な言葉で忌憚なく書き込まれている。取り組んだ結果は全員の評価表を全職員に資料として配布し、これを基に介護支援のために分析検討する機会も設けられている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に一度開かれている。出席者は、利用者の家族、地域包括支援センター職員、地区副総代、長寿会会長、介護相談員、地区民生委員、地元保育園園長、管理者、事務長、職員、利用者。会議は各ユニットリーダーが各月の活動報告・説明をして、委員の疑問に答える。質疑が行われ、ホームへのアドバイスをお願いしたりする。プロジェクターを用いた行事報告は単調な話し合いにしないように工夫されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の利用料金請求に合わせて、生活記録等を送付している。更に家族へのアンケート用紙も同封され、常に要望、意見を聴こうとしている。家族が気楽に訪問したり話しかけられるような雰囲気作りも大切との配慮がある。また家族が利用者の部屋に泊まることもできる。家族の方に花壇作りや畑を手伝ってもらうこともあり、ホーム運営にかかわってもらえる機会を増やしていきたいと管理者は考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>陶芸工房での陶芸教室、英会話教室。田原の福祉専門学校から実習生の受入れ、豊橋豊学校生並びに南陽中学生のボランティア受け入れ、開設4周年記念祭、七夕会、ボーリング大会、たけのこ主催の盆踊りなどを催して地域とふれあい、理解され受け入れてもらえるよう努力している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いつまでも普通に暮らせるノーマライゼーションを基本理念として、10項目(基本8項目の他に職員自身が作成し定期的に見直しを実施した2項目をプラス)が掲げられている。7項目目に地域との連携を大切にすることが掲示されており、七夕まつり、盆踊り等の[たけのこ]での行事を地域へ公開し、地域の方にも参加してもらっており、むしろ地域の行事としても定着しつつある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りの時には10項目の理念を復唱し確認している。追加された2項目(9・10項目)目は、職員が日々の中で必要と判断されたものが定期的に見直し追加の提案が為され、理念策定段階から職員も参画している。管理者と各職員の間では毎日「交換ノート」で意見交換が為されており、理念の実践についても意思疎通がなされる工夫がある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの駐車場を利用した七夕祭りや盆踊りで地域の人と一緒に楽しむ企画が為されており、地区公民館での文化祭に作品や、写真を展示して[たけのこ]を理解して貰い地域に受け入れてもらうよう努力している。又、地区の保育園や地元にある介護福祉専門学校に出かけたりする等、積極的にホームの紹介と理解が得られる様に運営されている。	○	地域の人の老後の一端を担うことで、地域の人々がより好感を持ってくれるよう日々努力している。今後とも地域に[たけのこ]が何を提供していくかということであり、さらにイベントや、各種文化教室等を開催しながらより地域と身近な関係をつくりあげていくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と理解は全員に重要視され、自己評価も常勤、非常勤を問わず全員(21名)で時間をかけて取り組まれていた。自己評価表への記述は率直でまじめな取り組みが伺える。その結果は全員分を縮小版で配布し、それをもとに問題点や改善策の話し合いの場がもたれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開かれており、外部関係者にもわかりやすいようにと、グループホームでの行事をプロジェクターを使い活動報告をありのままにする等の工夫もされ、問題を提起して出席者による実質的な議論をしている。出席者には利用者も参加しており、その家族、職員その他、地域からの参加者としては町内会総代、長寿会会長、保育園園長、介護相談員、地域包括支援センター職員である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員の運営推進会議への参加はないが、地域包括支援センターの職員をもって、市としての関わりとしている。現状では出席要請には苦慮している様子だが、運営推進会議録を提出したり、勉強会があるときも案内をする等の働きかけを継続している。駒方町総代には行事を行う時に駐車場を頼みに行ったり、近くの幼稚園には何回も訪問して連携できるよう工夫している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりが具体的に記載されている生活記録表(夜9時以降の様子も1時間毎の記録が為されている)は毎月家族宛に送られている。金銭管理帳とともにサインをし、返却してもらっている。入浴、毎食の摂取量、外出や散歩、健康状態に異常があった時も受診の事前と事後について連絡され、家族にとって受診状況や日常生活が具体的に解るようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	運営推進会議には家族の参加がある。毎月の家族への報告書のなかにはアンケート用紙が挟まれいつでも要望意見を言えるようにしている。家族が気楽に意見をいえるような雰囲気づくりも大切として配慮しているが、管理者等はまだまだ十分でないと感じており家族会が作れないかと模索している。	○	「家族会」について、ご利用の家族の中にも希望・要望されているので、家族会発足の為に関係者との調整に入ることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	85・88番地の2ユニット間の担当制は固定化されていて、職員の異動は余りない。しかしながら異動があっても安定した介護ができるように両ユニットの交流はできている。例えば、新人職員は1ヶ月ごとに交代があり、両ユニットの把握に努めている。また、毎日午後3時半頃から行われるケア会議は両ユニット合同で行われるので職員は全ての利用者の状況を概ね把握できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修に対しては意欲的で、研修に出かけやすいよう勤務表に組み込む努力がなされている。非常勤職員の外部研修もある。新人に対してはスタッフが1対1につき、業務終了後は記録の仕方、接遇等の講義を受け当ホームの行動理念を学んでいる。事務長が福祉大学、看護学校の非常勤講師であり、職員に対しては月1～2回の講義をしており、外部講習会との併用で職員のレベルアップを意図した内容となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊橋事業者連絡会、愛知県グループホーム連絡協議会、全国グループホーム協会等に加盟参加している。事務長は認知症に関する各講座の講師を務めることが多い人物なので、同業者団体等で外部研修講師として業界のリーダー的役割をはたしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	部屋が空くことがないので体験入居(お試し利用)をすることはできないが、本人や家族に対して、他の利用者がどのようにホーム内で過ごしているかを見てもらったり、交流したりして判断してもらっている。家族と本人の意見が違う場合は時間をかけて対処している。19年6月から始めた共用型デイサービス利用者から入居された方がいた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自由にしてもらうというのが基本にある。支えあう関係でいたいという意識を職員が共有している。食事作りの場面では利用者から職員の方が教えてもらうことも多い。昔の歌や調理の仕方など利用者の知識や経験を活かす様に心がけている。必要以上に手を出さず人生の先輩と一緒に何かをする態度で接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のケアシート(利用者に焦点を当てた介護方式)を取り入れ、一人ひとりの思いを読み取るように努めている。利用者の全体像を絵で現し、うれしい事・やりたい事などを人物像の周りに記入しているので見やすくなっている。職員にとって認知症高齢者の生活支援施設であるグループホームは自分たちのやりがい発揮の重要な場所であるという誇りすら感じられる。最近では、ゲートボール好きな方の為に、裏の空き地に3ヶ月かけて草取りや石ころ拾いをし運動場を作った。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに焦点を合わせたケア会議を2ユニット合同で毎日午後3時半から開かれている。ホワイトボードには現状・目標・ケア・ケアに対する事実の項目が書かれ職員、本人も参加で検討されている。一日一人の割で見直し記録していくため細かなチームワークに基づいたケア計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記のケア会議は一人ひとりに合わせた会議を365日毎日行われているので、少なくとも18日ごとに介護計画は見直されている。急を要する変化があった場合は、優先して本人、家族、主治医との話し合いを基に新たな計画が立てられる。その他、月2回のユニット会議でも利用者のケア情報を職員、利用者が共有し介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日中は家に帰り、夕方にホームに帰ってくる利用者もいる。家族が希望すれば利用者の本人の部屋で泊まることもできる。近所の方で急な要望がある時は共用デイサービスを利用してもらっている。施設の敷地内には陶芸の工房があり、地域の交流センターとして機能し始めている。	○	ゲートボール場も開設されたのをきっかけに、地域の高齢化に対応して、たとえば[たけのこ]が高齢者の集会センターとなったり、散歩の途中休憩地として利用されるよう、お茶やベンチ、花等を整えるなどの活動展開を期待したい。また、市に散歩コースの整備を働きかけるなど、地域老人のための「高齢者駆け込みセンター」でもあって欲しい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医を希望される利用者にはかかりつけ医の利用が可能である。遠方の病院であっても管理者・事務長が付き添うことで対応している。ただ急を要するときは事前に家族に連絡し救急病院での受診となる。家族には受診報告し、後日その診断結果を持って、再度かかりつけ医の診察を受けるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の事前指定書が作成されている。その内容としては、病院受診について、医師から入院をすすめられた場合について、口からの食事が取れなくなった時について、急変時の処置について等である。現状では最終的に医療機関になる可能性は大であるが、グループホームでのケアとしては、ぎりぎりの段階まで生活支援をしたいと思っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	写真など外部で使用する場合は家族に確認をとっている。利用者の情報は他に漏らさないように気をつけている。職員には人生の先輩者に対する言葉遣い・態度で接遇することを求めている。できなかった場合には、その事実を率直に書き留めることが指導され、ミーティングでは繰り返し話し合われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に区切られないで個人のペースで生活できるように支援している。だいたいの一日の流れはあるが、利用者の気分、状況に合わせている。昼寝、外出、散歩や気功、歌、フラダンス、陶芸教室は個人の意思を尊重して好きな方が参加するようになっている。入浴は好きな時間に入ってもらうよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から調理方法を教えてもらったり、その人にあった割り振りで食事準備をしている。現役時代に給食センターで働いていた利用者が一手に調理を引き受けたがる例もあった。朝の献立会議で新聞折込チラシなどを見て昼、夜のメニューは決められている。便秘解消にスキムヨーグルトを出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝9時から夜9時まで好きな時間に入浴することはできる。入浴できないときは、足浴や清拭で対応するときもある。2日以上入浴されない方には職員が声かけをしたり、家族のように一緒に入浴することもある。しかし、デイサービスで入浴する人が増え、希望時間に添えないことができてきている。	○	利用者満足度を満たす為にも、入居利用者とデイサービス利用者との入浴希望時間調整が必要になっているようなので、解決を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人ひとりがしたいことを大切に生活計画はたてられている。料理が好きな方には食事作りで活躍してもらい、編み物が好きな方は作品をバザーで売ることもある。ゲートボールの好きな方には草取りや石ころ拾いをしてグラウンドを作った。買い物、配膳、片付け、お茶出し等は利用者が楽しみながらかつ残存能力活用とリハビリ効果を狙って実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として、毎朝献立会議の後、買い物に職員と一緒に رفتり、散歩に出かけたりしている。家族のもとに月に何度か帰る利用者もおり、家族と料亭に行くこともある。概ね、ほぼ毎日、職員が車を使って連れ出している。桜淵への花見や賀茂菖蒲園等季節が感じられるような配慮もされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を職員は理解し、いつでも出て行けるという安心感と気楽に外部から訪問してもらうことを大切にしている。玄関は朝7時から夜9時まで開放されている。事務所の位置を両ユニットの玄関に配したり、チャイムで外出の見落としを防いでいる。ただし、職員数が少なく目が届かないと感じられるときには、鍵かけを一時的にする場合もある。利用者の中にはGPSシステムを利用している方もいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し利用者とともに避難訓練を行っている。最近では(5/31. 6/25. 7/16. 12/6)の四回行われている。訓練結果で約6分で避難できることは確認されているが、さらに時間短縮に努めようとしている。消防署の人から消火器の使い方、通報手順の講習を受けている。夜間の避難が対応できるのか不安がある。緊急時対応としても利用者の部屋は掃きだし窓になっている。	○	避難訓練は行われているが、地域との連携を含めたものについても合わせて今後の対策検討が望まれる。夜間の避難体制の確保とともに地震に対する備蓄についても早急に検討されたい。訓練の大きな目的は、非常時に利用者をスムーズに誘導できる全職員の「体感(体での理解と習得)」にあると思うので、今後とも継続して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少なくなった方には生活記録簿より詳しく別紙で記録が取られている。自力で食べた分と介助による分とを区分して摂取量の把握がなされている。病院受診で必要ならば高栄養補助食品をだしてもらうこともある。入浴後には水分を取ってもらうようにしている。	○	食事量把握については行き届いた支援がされているが、水分補給についても「量の確保とその把握」記録について同様の工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からバリヤフリーになっており、玄関にはソファや懐かしい筆筒が置かれている。食堂は吹き抜けになっていて広々としている。光が差し込む中庭や、野菜作りが楽しめる畑もある。両ユニットの間にはスタッフルームがある。その一角には畳が敷かれ炬燵とテレビがあるので利用者の方もゴロ寝を楽しむなどされている。ホームには小型犬が仲間として飼われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	8畳の各部屋にはトイレが設けられている。共有スペースにも3つのトイレがあるが個室のものを使用されることが多い。部屋の窓は掃きだし窓になっていて外にも出やすくなっている。自前のベットの方が多いが畳に布団で休まれる方もいる。手作りのクッションでインテリアを整えたり、家族の写真、本を持ち込んでいる人もいる。持込んだ仏壇に毎日お供えをしている方もいた。		